

活躍する専門技術者に聞く②

いのうえ としひろ
井上 智洋氏 (西芝電機株式会社)



井上 智洋 (いのうえ・としひろ) 氏

第2回は西芝電機株式会社(兵庫県姫路市)に勤務する井上智洋氏(47歳)。工事部門一筋に歩んでおられる同氏から、建設現場で起きた様々なエピソードを中心にお話を伺った。

1. 業 務 経 歴

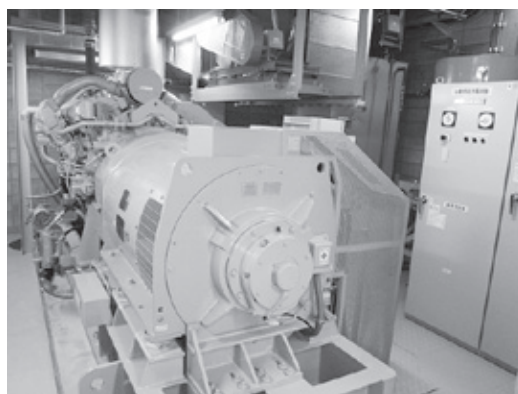
井上氏は神戸商船大学商船学部(現:神戸大学海事科学部)を卒業後、西芝電機株式会社に入社した。工事サービス部の工事課に配属され、途中関連会社への出向も含め一貫して内燃力発電設備・周波数変換装置等の据付工事業務を担当してきた。自家用発電設備専門技術者(SKMの三部門)を平成8年に取得、併せて特種電気工事士や、建築・土木・電気各施工管理技士も保有しており、平成26年度には建設マスター(電気工)を受賞した。

入社時のいきさつをお聞きした。

「兵庫県出身で地元企業ということもあり、自然と入社しました。商船大の出身なので、『何故船乗りにならなかったの?』って聞かれることが多いのですが、専攻が配管とか工事に関係する分野でしたし、当社は製造業でありながら建設業でもありますから、共にニーズに合った形での就職先でした。」

2. 施 工 実 績

井上氏が施工した物件は西日本を中心に、主に内燃力発電設備である。入社以来50件を超える物件に



施工した住居・商業総合ビルの発電設備

従事している。大手スーパーマーケットの常用発電設備の施工で職長を務めたのを皮切りに、工場・病院・遊技施設まで多様な施設の工事で現場代理人や主任技術者として豊富な監督経験を持っている。主な施工物件を以下に紹介する。

- ・商業ビル(福岡県北九州市)
400kW×7基。ディーゼル機関駆動常用発電設備
- ・大学(山形県山形市)
560kW×3基。ディーゼル機関駆動常用発電設備
- ・住居・商業総合ビル(東京都文京区。更新工事)
800kW×1基。ディーゼル機関駆動非常用発電設備

比較的、常用設備の施工が多かった為、その後の物件の稼働状況は非常に気になっているという。

施工から十数年経った今でも、施工側より井上氏宛に増設や撤去の相談が舞い込むこともある。施工時に築いた信頼関係を活かし、非常用発電設備については営業担当者と共にリプレース提案活動も行っている。施工にあたっては、行政、とりわけ所轄消防との折衝も数多く経験してきた。

「各自治体の気候風土に応じた条例や指導があって、消防署の方には色々お世話になりました。特に寒冷地における施工にあたっては所轄の方から仕様についてよくご指導を頂きました。」

3. 業務上心掛けていること

井上氏が業務上心掛けていることは、西芝電機の経営方針にもあるとおり顧客満足を基本とした安心安全な製品引渡しと納期の遵守である。実際井上氏らの工夫により納期遵守に繋がった物件として、平成24年に行った鉄鋼会社（姫路市）向け非常用発電設備工事（800kW×1基。ディーゼル式）がある。



搬入路を改良して通行可能となった15tトラック

当初計画では、発電機を50mコロ引きして搬入する予定であった。搬入経路を一部改良して大型トラックの通行を可能にした。これにより搬入工期を2日間短縮できたという。

「軒を取り外したり、砂利道を舗装したりして対応しました。土木施工管理技士の知識も活かされた好事例でした。」

4. 後進への助言

一貫して発電機の工事部門に所属し、根っからの工事屋である井上氏。顧客満足度の向上を常に追い求めており、後輩社員に対しても特に技術者が陥りがちな自己満足や視野の狭さを戒めている。

「直属の部下が3人いますが、必ず施工様やお客様目線での自己評価を行うようにと助言しています。」

顧客から喜ばれた経験として、20代の職長時代に従事した地元スーパーマーケットでの発電設備入替工事の仕事を取りあげられた。

「テナントにパン屋さんがいたのですが、パン屋さんは早朝から仕込みますよね。夜間工事でしたので『パンを朝焼けしないよ』って怒られました。販売予定分を弁償しますと回答したら、『パンが店先にあるからこそお客様の信頼を得られる。弁償ではなくパンを作らせて欲しい』って言われて…。何とかしようと早朝だけ電源供給できるように受電盤の配線替えをして対応したところ、大変感謝されました。」

社内では安全衛生協議会等の講師として、後輩社員はもちろん協力会社社員の人材育成にも努めている。所属課内においても内発協の専門技術者テキストを教育資料として活用し、指導している。

工事部門一筋に23年間歩んでこられた井上氏。大変紳士的で穏やかな性格の同氏であるが、現場への思いやこだわりは人一倍強い。



「勤続年数を重ねるに連れ本社での仕事が多くなっています。しかし、いつまでも現場でヘルメットをかぶって仕事し続けたいという気持ちに変わりはありません。現場に出ると自宅には当分帰れないので家内や子供には申し訳ないですが。」

西芝電機では、平成12年に内発協推薦により大川佳巳氏が建設マスターを受賞した（西芝エンジニアリング株式会社出向時、電気工）。大川氏が現場代理人、井上氏が職長というコンビで数多くの自家発電設備の施工を手がけてきた。

「直属の上司として最も影響を受けた人物です。大川氏に教わったことを部下や協力会社社員の方に一つでも多く伝承していきたい。」

仕事だけではなく、父親として、公私共に充実した日々を過ごしている井上氏。今後も発電設備の専門技術者として、顧客や社会から感謝される優れた製品を提供し続けることであろう。